



今日も町は  
平和そのものだな

これもアリシア様と  
騎士団の皆さまの  
おかげです

御身自らの警邏  
痛み入ります

いや、  
私の活動など  
大したことでは…

むっ？

そなた  
大丈夫か!?  
しつかりしろ!

う…  
うら…

意識はあるな  
誰かこの男を  
運ぶのを  
手伝ってくれ

いたっ!

アリシア様!?

はっ  
おいしつかりしろ  
いま運んでやるぞ

い、いや  
大丈夫だ  
指に髪の毛が  
絡まったただけだ

それよりも  
早く彼を運ぼう



ただの  
立ちくらみとは  
お騒がせな男め

仕事熱心なのは  
いいことだが  
しつかりと休息を  
取るように

はい  
以後気を付けます

申し訳  
ありません…

アリシア様に  
感謝するんだぞ

あの方が  
見つけてくれなければ  
干物になっていたかも  
しれんのだからな

はい  
感謝します

あの人だけを  
愛し続けます…

なんでもありません  
お世話になりました

ん？

ふふふ

ふふふふ…



アリシアちゃんの  
髪の毛を  
手に入れた!!

ついに  
やったぞ!

ついに



これで彼女は  
僕のものになる



スウウウウ



さあ  
この髪の毛を  
取りこむんだ

カッ



声が出ない！

なんなの  
これは!?

はっ…えッ!?  
ここは何処だ!?

からだが…っ  
勝手に動く!?

かほっ

みんな  
もつと  
私のことを見てっ♡

視線で犯すように  
見つめてくださっ♡

な、なななっ!?  
なにを言っているんだ  
私は!!

今日が初めての  
お仕事ですけどお

口が勝手に  
喋ってしまうー！

だ、駄目だ…

一生懸命  
ご奉仕するのでえ

ご指名  
まっつてまゝす♡

いったい  
何が起きて  
いるんだ!?

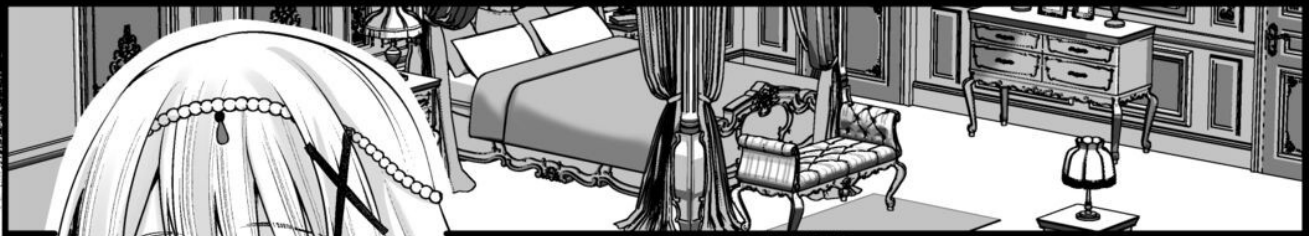
たの  
び♡

ぷり♡

ぷり

ぱか♡

たの  
び♡



アリシアです！

ご指名いただき  
ありがとうございます！  
ございます！

くそっ…  
指名されて  
しまった…

いっっぱい  
私のカラダで  
ご奉仕させて  
いただきますので

ムラムラを  
発散させて  
くださいね♡

ふふ  
待っていたよ  
アリシアちゃん

どうして  
身体が  
動かせないんだ！





ああん♡

お客様の  
おチンポ  
でかすぎて

むずっ

く、臭い！

アリシアのおっぱいで  
収まりきれませえん♡

この匂い  
やばい

ちゅっ

頭の奥に  
突き刺さるみたい

アリシアちゃん  
優しくお願いね

臭いだけ  
じゃなくて

嗅いでいるだけで  
脳みそがしびれて

くちゅっ♡

はい♡  
アリシアのおっぱい  
お楽しみください

おふっ

何も  
考えられ  
なくなる……！

ちゅっ

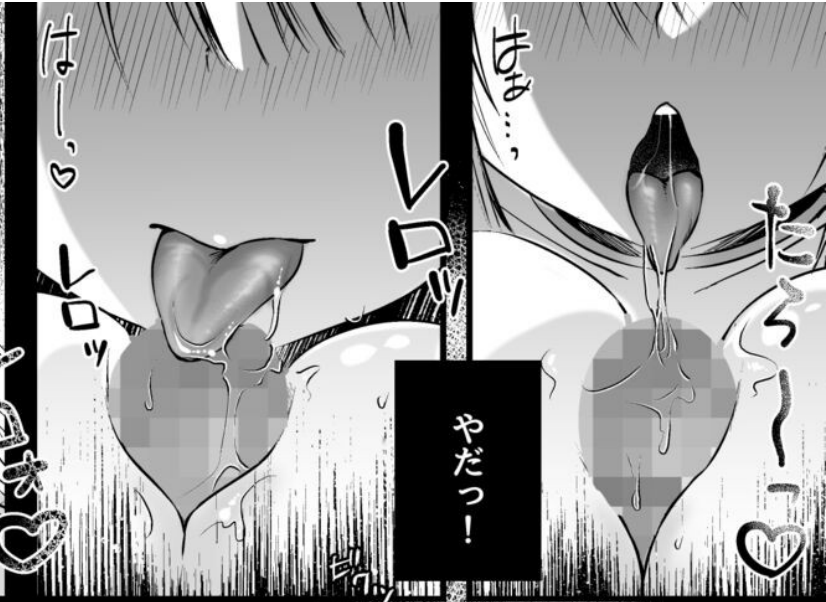
ちゅっ

ちゅっ



わたし

あっ…いいよ  
アリシアちゃん  
凄く上手だよ



やだっ!



知らない人の  
おちんちん  
舐め回してる…っ

あはっ♡  
そう言われると  
アリシア  
もっつと  
頑張っちゃいます♡



生臭い…

なのに  
味は濃厚で

クセになりそう

美味しい…

たっ  
たっ  
たっ

たっ  
たっ  
たっ

今…っ  
何を…!?

でも…っ  
この味…

何を  
考えていたの?

だめっ  
考えるな!

正気を保て!

あっ  
アリシアちゃん  
もう出そう…!!

知らない人の  
おちんちんが  
美味しいだなんて  
そんな…っ





ええ!?

待って!  
ちよつと待っ…

息がっ…

苦しい…

ぐわわわ

ぐわわわ

苦しいのに  
おちんちんの  
濃厚な味が

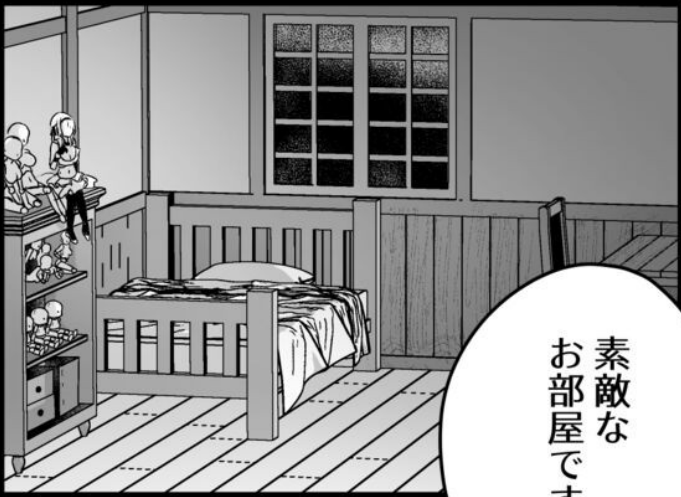
喉の奥に  
広がって…♡

ごちそうさま  
でした♡

ぐわわわ♡

ぐわわわ♡





素敵な  
お部屋ですね



この部屋で  
これからアリシアが  
めちやくちやに  
されると思うと



もう普通に  
喋っていいよ

…アリシアちゃん

うう  
また破廉恥なことを…

興奮しちゃいます♡



僕が許可したからね  
素の君に  
会いたかったんだ

きよ、  
許可だと...?

ではこの一連の  
事態は貴様の  
仕業なのか!?



はっ  
あッ

ああ

しや...  
喋れる...!



そうだよ  
君はもう  
僕の所有物なんだ

なんでも  
いうことを  
聞いてしまう

こんな風にね



スッ



なっ...!?

か、身体が  
勝手に...!

ぽっ

ふふふ...

もち♡



あそこの人形が見えるかい？

あの人形には君の髪の毛が入っているんだ

僕は人形師でね

魔法の糸で人形を操ることができるんだ

そ、そんな...!?  
こんなの  
何かの間違いだ...!

むにゃ♡

間違いじゃないよ  
全て事実だ



それは君の人形も例外じゃない

さあ、アリシアちゃんキスをしよう

恋人のように  
熱い濃厚な  
キスをね

むにゃ♡

誰が貴様  
なんかと...

絶対に嫌だっ!



無駄だよ

さあ  
舌を出して

あ…  
くちゅ

あ…

うう…

駄目だ  
逆らえない…っ

ん

あ…

は…

ん…  
はあ

こんな  
最低な男と  
キスなんて…っ

ねっとり  
舌を絡ませ  
合おうね

はあ…あ…

嫌だ…っ

気持ち悪い…っ

はあ…  
あんっ

くちゅ

くちゅ









あ…

またこの  
おちんちんを…

んむっ  
えろっ♡

えろっ♡

くちんちん

んむっ…  
くちんちん…

んむっ…

えろっ♡  
んっ…

んむっ…

あ…

あ…



んむっ♡

んむっ♡

んむっ♡

んむっ♡

んむっ♡

んむっ♡

んむっ♡

んむっ♡

んむっ♡

んむっ♡

こんなに  
美味しいの…!?

んむっ♡



いいよ  
チンポの扱いが  
上手だね

アリシアちゃん

ん……



なにも  
考えられない……

射精すよ……ッ！  
全部飲んで……！



そうそう  
しつかり  
啜えこんで  
丁寧に  
舐めてね

ん……ッ



そろそろ  
お待ちかねの  
本番と行こうか

そうだよ  
僕に媚びるように  
お尻を振るんだ



最高だよ  
アリシアちゃん  
君は本当に  
素敵な女性だ

ふはっ

な、なに…?  
この感情は…?



こんな  
はしたない真似…

ぷり♡

ぷりん♡

でも…  
なに…?



身体の内側から  
熱くなっていく…

くわん♡

彼を見てみると  
疼きが  
止まらない…



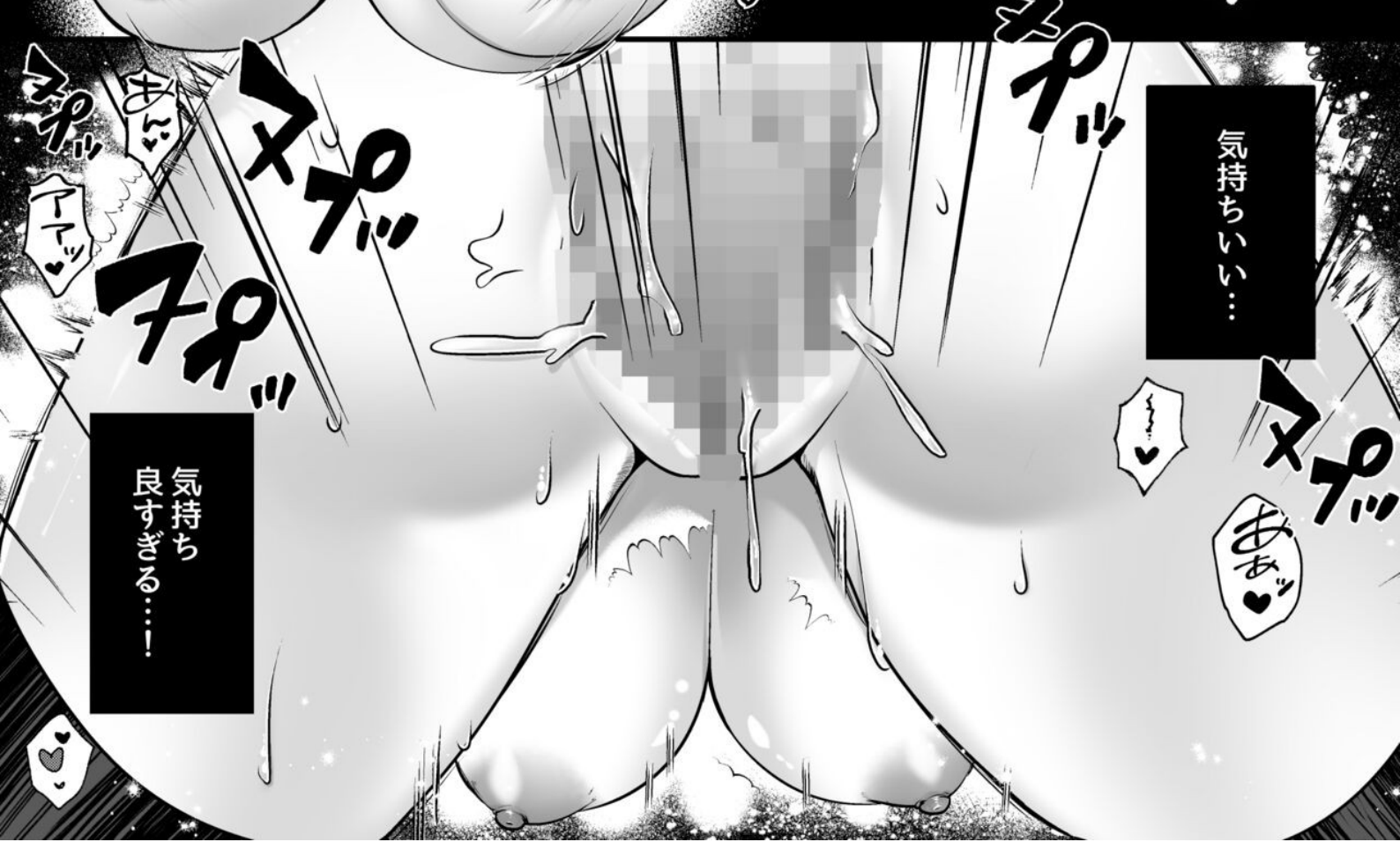


すぐに  
イカせて  
あげるよ!



あま♡

気持ちいい...



気持ち  
良すぎる...!

こんなの  
激しすぎる

すぐに  
イっちゃう……!

ほらっ  
イキなよ……!

イケ  
イケッ

イケ……ッ!

お  
お  
お

お  
お  
お

お  
お  
お

お  
お  
お

お  
お  
お

お  
お  
お

お  
お  
お

お  
お  
お

お  
お  
お

お  
お  
お

お  
お  
お



はま...

まだまだ  
終わらないよ

今度は  
アリシアちゃんが  
動いて

もつと

もつと  
気持ちよく  
なりたい...

もつと

もつと  
愛されたい.....!

おちやん♡  
おちやん♡  
おちやん♡

いいよ  
最高だよっ

もつと楽しもう  
アリシアちゃん!

上手くいった

巨乳が揺れていて  
最高の眺めだよ!

あなたの  
チンポも  
素敵よ

魔法の糸で  
操れるのは  
身体だけじゃ  
なかった

心も  
操ることが  
できたんだ!

そうね  
最高の夜に  
しましょう!

おちやん♡  
おちやん♡  
おちやん♡

はま♡

おちやん♡

あー♡

僕は糸を通して  
ずっと理想の  
アリシアちゃんを  
妄想していた

彼女に  
こうなって  
ほしいと

すると  
どうだろう

セックスを通して  
彼女の心は  
アジャストされた…!

あー♡

あー♡  
くほっ♡

くほっ♡

くほっ♡  
くほっ♡

あー♡

僕に従順で  
セックスが  
大好きな

えっちな  
アリシアちゃんに  
なったじゃないか!

ちよっとお  
急に  
揉まないでよお♡

ごめんね

目の前でこんな  
立派なのが  
揺れてたら  
我慢できないよ

あー♡  
あー♡  
あー♡

あー♡  
あー♡

あー♡  
あー♡







大好き！  
大好きよっ！

ずっと  
傍にいるわ！

ああ…  
嬉しい！

僕もだよ  
アリシア

永遠に  
一緒にいよう…



ここはもう  
僕たちだけの楽園だ



